

東北労働金庫「ろうきん地域貢献ファンド」 2008年度
Aコース（企画事業・組織開発助成コース） 助成事業報告書

2009年4月30日

団体名（ふりがな）	とくていひえいりかつどうほうじん 特定非営利活動法人	まなびのたねねっとわーく まなびのたねネットワーク
事業名	情報公開ツール作成事業	
連絡担当者お名前（ふりがな）	たなか 田中	きとこ 聡子
助成金を使って行った事業について、記述してください。		
1. <u>ニーズ別情報コンテンツ検討会（ヒアリング）の実施</u>		
【実施日】		
11月26日（金）18:00～20:00 第1回 団体内検討会		
12月21日（月）18:00～20:00 第2回 団体内検討会（Webデザイナー含む検討会）		
2月2日（月）18:00～20:00 第3回 団体内検討会（Webデザイナー含む検討会）		
2月13日（金）16:30～18:30 ニーズ別ヒアリング		
2月24日（火）16:30～18:30 ニーズ別ヒアリング		
3月27日（金）15:00～16:00 対象ヒアリング		
<p>まず、団体内でのコンテンツ検討会を行い、現在の活動の整理から始めた。なお、その際に、WEBデザイナーのK氏（本人の希望により匿名）にも入って頂き、客観的な意見を頂きながら進めた。WEBデザイナーに入って頂いたことで、WEBサイト開設の目的を常に確認しあいながら話し合いができたこと、また私たちが普段使っている言葉や、活動の紹介の仕方が、一般市民にとっては分かりにくい表現を使っていることなども気がつくことができた。</p> <p>コンテンツの決定に至るまでには、理念の再確認、現状の分析、3年後、5年後、10年後に何で収入を得るようになっていくのか、その切り口は現在のどの事業から広がる可能性があるのかを話し合った。</p> <p>中でも、活動対象について検討したことが大きかった。当初は小学校・中学校・高校・大学・企業を対象としていたが、活動実態に照らし合わせると同時に、他団体との活動対象の違いなども考慮した結果、当団体の強みであり、かつ重要な活動である「公教育上のキャリア教育」という切り口で対象を絞り、ホームページを作成していくことにした。</p> <p>以上の検討を元に、WEBサイトのコンテンツごとの叩き台を作成し、それを元に、ヒアリングを行った。当初は様々な関係者（＝活動対象となる学校、行政、企業、などの様々な立場で、当団体に理解がある人）を一堂に集め、それぞれの立場からご意見を頂こうと考えていた。しかし、当団体の主な顧客は誰か、またその顧客からどれほどの事業収入が得られるのか、収入の面だけでなく、団体のミッションとして核となる事業は何かを検討し、対象の思いと当団体との接点を探るため、ヒアリング時間を確保して個別に行うこととした。</p>		

ヒアリング対象者は、当団体が大切にしている公教育支援のコンテンツについて、社会教育主事の市民センター等でも活躍をされている教員の方、教育に対して理解のあるNPO活動をしている方の2名にお願いした。

このヒアリングを受けて、WEBデザイナーと一緒に、再度コンテンツの検討会を行った。特に、言葉の使い方では誤解されてしまう表現などを、学校の立場から忌憚らない意見を頂くことができた。コンテンツの入口はターゲットごとに二つに分け、誤解を招く可能性のある資料



【情報コンテンツのヒアリング様子】は削除し、別のコンテンツの説明量や写真を増やすなどの工夫を行った。

2. WEBサイトの開設ならびに管理マニュアル作成

コンテンツの整理をしたところで、実際にWEBサイトを立ち上げた。

WEBサイト→ <http://www2.zundanet.co.jp/manabinotane>

WEBサイトについては、団体紹介に重点を置き、なるべく短時間でニーズにあったページを把握できるようトップページを工夫した。また、アクセス時間をなるべく短くするために、あえて階層を深くしなかった。

また、管理と更新作業については、K氏のアドバイスのもと、業務の手間を省くため、すぐに更新するものについてはブログから発信することとし、WEBサイトとブログを使い分けると同時に、WEBサイトとブログを連動させるような内容にした。したがって、管理マニュアルについては、更新する情報が発生した時点で随時作成することとし、当面はK氏がボランティアとして更新作業を支援していただくことになったため、その視点から21年度の動きに合わせてマニュアル化を進めることとする。

3. パンフレットの作成

パンフレットの作成では、WEBサイトとの違いを打ち出した。用途を「問い合わせがあった後に見せるもの」と設定し、短時間に必要な情報を提供できるよう心がけて作成した。

特に、一般用については当団体の売りでもあるプログラムとその開発、ワークショップの企画、運営の依頼が来ることを想定した申込用紙とヒアリングシートを一緒にしたものを作成することができた。また、対象によって出す情報を変化させたものを作ることができた。このシートによって、担当者が違う場合でも共通した打合せができることで、団体としての対応のばらつきをなくすることが可能となる。また、必要な情報を打合せの場で聞き忘れるということもなくなるメリットがある。

先生方については、ヒアリングの結果を受けて、「お金の話が出ると頼みたくなくなる」ことや「どんなプログラムを過去に実施して、子どもたちにどのような効果があったのかを知りたい」というニーズを大切に、プログラムの情報提供に徹した内容となった。

そのほか、ボランティアの関わり方についても、今までの関わり方より少し幅を広げて、具体的に示すことができた。

4. ニーズ対象者への理解度調査

ニーズ対象者として、はじめ会員を想定したが、すでに会員は当団体のことを理解しており、理解度を調査する対象として適切でなかったため、現場で使用しながらヒアリングをすることとした。

キャリア教育に関心のある保護者の方

→キャリア教育に興味があり、団体に問い合わせいただいた方。実際にどのような活動をしている団体なのか、どのようなプログラムを持っているのか、どこでどのくらい活動をしているのか、など具体的に知りたいというニーズをお持ちだった。団体概要を把握した上で、さらにそれらを他の人に伝えるためのツールがあると、PTAの役員会や関連する先生方に話がしやすいことも意見としていただいた。したがって、先生方向けに作成したものを、団体スタッフが直接提示するだけではなく、団体外の方がさらに他の人に説明するためのツールとしても有効であることが分かった。さらには、社会学級やPTAなどでも、子どもたち向けだけではなく、保護者向けのキャリア教育プログラムをしてみたい、との感想をいただいた。一般対象の中にPTAや社会学級というのを想定してなかったが、そういったニーズがあることを知ることができたヒアリングとなった。

今回の助成事業には、どのような形で、複数の団体の協働やボランティアの参加がありましたか？ 具体的に記述してください（人数、関わりの内容、参加者の感想など）

〈コンテンツのヒアリング〉

・ NPO 法人アフタースクールぱるけ 谷津尚美さん

→活動内容の紹介に具体性を持たせると頼みやすいなど、NPOの視点でアドバイスを頂いた。その際に、当団体に依頼する際に、どのような関わり方をしてもらえるのか、という「関わる」視点で情報をまとめてはどうか、という意見をいただいた。また、このヒアリングを機に、当団体の役割を明確に示すことができ、コラボレーションできないか、という話になった。そして、小学校のキャリア教育（仙台自分づくり教育）のゲスト講師として、実際の授業実施に繋がるコーディネートをすることができた。

・ 仙台市教育局生涯学習課 社会教育主事 白井浩先生

→教員代表としてヒアリングをした。教員のホームページの見る動機やシチュエーションからお話しいただき、NPOと企業の違いを打ち出した方が良い、言葉を堅苦しくせず、センテンスを短くわかりやすい言葉で書く、写真を入れて…など、学校現場の立場になって的確なご指摘、わかりやすいホームページなどのご紹介を頂いた。

また、学校の先生向けのコンテンツについては、収入源を意識したコンテンツ作成ではなく、あくまでもキャリア教育の広がりをもつことを目的としたコンテンツ作りをした方が良く、とのアドバイスをいただいたことが当団体にとって有意義な視点となった。学校でのキャリア教育支援は、当団体の使命に基づく、大切な事業であるが、同時に収入が見込めない事業であることを改めて痛感させられ、どのような情報を盛り込むか判断する視点をいただいたヒアリングとなった。

〈WEBデザインのトータルプロデュース〉

・ デザイナー (Kさん) ※本人の希望により匿名希望

フリーのデザイナー。本人の希望もあり、ホームページ作成をかって出て下さった。当団体との関係はこの作成からであるが、プロ意識が高く、専門的かつ客観的な視点から忌憚のない意見をたくさん出して下さった。また、管理マニュアルの作成支援ということで、21年度も継続して関わって下さることになった。

〈ニーズ対象者への理解度調査〉

・ キャリア教育に関心のある保護者の方 (Tさん)

PTAの学年委員の経験をお持ちで、かつ社会学級生ということもあり、保護者の中でもかなり学校の事情を踏まえた方だったため、たくさんご意見を頂いた。また、会員になるかどうかは別だが、ボランティアとして関わりたいという希望を持っていただいている。今回作成した情報ツールの可能性を広げて下さった。

当初の事業目的はどの程度達成できましたか

●申請書に記載した事業目的

当団体の実績と事業収入をあげることを目的として、顧客対象へ向けて団体や活動をPRするための情報ツールが必須である。しかし、これまではスタッフ数の不足から、キャリア教育事業の実施以外の組織運営にかかる業務に手をつけることができず、特に情報公開・発信が不十分であった。これらの問題を解決するため、情報ツールの作成をすることとした。

●目的の達成度（自己評価）

情報ツールを作成するまでは、当団体の説明を行っても「何をしているのか分からない」「キャリア教育がよくわからない」「ファシリテーションって何？」「ワークショップとは？」という印象をぬぐうまで時間がかかっていたが、ツールができたことで時間を短縮し、かつ正確に団体の実績を照会できるようになった。そして、今後の活動の展開を見据えた納得のいくものがあった。

また、組織開発という部分において、かなり達成することができた。具体的には以下の通りである。

- ・理念の再確認になった。
- ・キャリア教育と自分づくり教育の説明が簡潔になった。
- ・各活動の目的の整理（広めることが目的なのか、収入の獲得が第一優先なのか）ができた。
- ・伝えなくてはならない情報を対象別に分類し、整理したことによって、効率的かつ効果的な情報伝達が可能となった。

特に、丁度この助成事業が始まった時は法人設立総会から半年あまりが経ち、計画していた事業が本格的に動き出すと同時に、団体として初めての分野の活動に取り組み始めた時期でもあった。この時期であったからこそ、上記のような、団体として基本的なところの話し合いが徹底的に出来たことは、非常に貴重であった。

スタッフ数の不足の解消までは今年度は至らなかったが、スタッフを獲得するために必要な情報の整理ができたことはとても大きかった。

●達成できない部分があった場合には、考えられる原因をお書きください。

情報ツールは作成したものの、それが事業収入に結びつくかどうかはまだ見えてきていない部分である。また、対象者への理解度調査を活用しながら理解度を確かめる必要があるため、スタッフの増員にまで至っていない現状も挙げられる。したがって、今回作成した情報ツールを元に、さらなるツールの充実を検討していきたい。

今回の事業は、団体の活動や、地域社会にどのような成果・効果がありましたか。

当初、事業収入やスタッフ増加に繋げることを目的として開始した情報ツールの作成だが、コンテンツのヒアリングを行う度に、そもそも団体としてこれからどの部分で資金を得ることに重点を置いていくのか、本当にこれからやっていきたいことは何なのかを再整理することもできた。例えば収益事業と考えていた事業の一つは、広報事業と捉えて今後の展開を見直すことになった。他、理念の再確認など、組織として基本的なところを見直すことができ、活動計画を作成するにあたってそれが役立っている。

地域社会においては、ヒアリングの調査を通して、ヒアリング先のNPOとのコラボレーションにより、小学校でキャリア教育の授業が実現した。また、当団体の情報媒体が増えたことで、地域の人達が必要としている情報へのアクセスが効率的になると考えられる。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか。また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか。

「相手の対場になって」という考えで活動していたが、ヒアリングを実施していくと対象によって言葉の使い方の確認は常に行わなければならないと感じた。このツールを作ったのを機に、ニーズと私たちの使う言葉やもののとらえ方が合致しているとは限らないことが課題である。

したがって、合致しているかどうかを常に意識して確認していくことが必要である。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか。また、その際に必要なものは何ですか。

今後は、今回作成したツールの感想を活動の中でチェックすること癖にして、意見を伺いながら、少しずつ必要な情報、新規の情報を足していきたい。

そのためにも、今回見えてきた課題、当団体の強みをスタッフ一人ひとりが意識して、日々の活動や団体の広報に取り組むことが必要であると痛感した。また、今回作成した情報ツールを活用して、団体や活動内容の紹介だけでなく、アドボカシーなども発信できるようにしていきたい。

その際には、基本的なことであるが、団体内部だけではなく、外部の意見を取り入れる機会を作っていきたい。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	金額（円）	内訳
ろうきん地域貢献ファンド助成金	300,000	
自己資金充当分	112,755	
合計	412,755	

支出の部

項目	金額（円）	内訳
WEB制作費	120,000	企画・デザイン料込み
リーフレット/対象別パンフ制作費	130,000	
レンタルサーバー代	30,000	サーバ開設料を含む
切手	3,220	会員・ボランティア・協力者 郵送分
WEBデザイナー交通費	1,920	仙台市営地下鉄（黒松-広瀬通 り）片道240×往復分=480円
ヒアリング者交通費	2,100	仙台市内 一人1000円（謝礼 を含む。2名分）

振込み手数料	515	
人件費	125,000	1日5,000円×1人@25日
合計	412,755	

<ろうきん>へのメッセージをどうぞ。

企画事業・組織開発コースで助成を頂きました。このようなコースが設定されていることは、私たちのような組織として未整備な状態の団体にとって非常にありがたいコースでした。今回の助成事業を通して、申請時に考えていた内容以上のものが結果的に団体にもたらされたのではないかと考えています。NPOが有効に使える助成事業だと思います。本当にありがとうございました。